

2 研究の実際

本研究では、児童が、「音楽の縦と横の関係」を聴き取り、感じ取ったことを表現に生かすことができるように、領域や分野の関連を図った題材構成の工夫と、児童が聴き取り、感じ取ったことを表現に生かすことができる発問の工夫をします。

(1) 学習指導要領に示される内容から

ア 領域や分野の関連を図った指導について

小学校学習指導要領には、次のように示されています。

指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

第2の各学年の内容の〔共通事項〕は表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要なものとなり、表現及び鑑賞の各活動において十分な指導が行われるよう工夫すること。

文部科学省 『小学校学習指導要領』 平成20年3月 p.86より引用

学習指導要領における音楽科の内容は、図1のように「A表現」「B鑑賞」の2領域と〔共通事項〕で構成されており、「A表現」は、「歌唱」「器楽」「音楽づくり」の3分野で構成されています。

領域や分野の関連を図った指導とは、これら全ての領域や分野において共通して指導する〔共通事項〕を各活動に位置付けることによって、領域や分野の学習内容を関連させ、指導の効果を高めることをねらうものです。

その際の指導上の留意点は、次のとおりです。

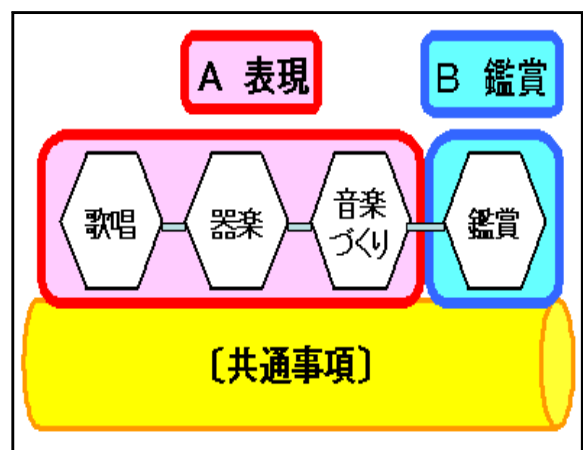


図1 音楽科の内容構成



領域や分野の関連を図った指導を行う際の留意点



各活動の指導事項から児童に身に付けさせたい指導事項を取り上げ、指導内容を決める

「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「鑑賞」の各活動には、それぞれの特性に応じた指導事項があります。それらの中から、児童に身に付けさせたい指導事項を取り上げ、それらを関連させて指導ができるようにします。各活動の指導事項が関連して、題材のねらいとなります。

題材を貫く〔共通事項〕を各活動に位置付ける

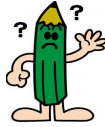
〔共通事項〕に示される内容の中から、各活動の指導事項に合ったものを適切に取り上げ、それを各活動に共通して位置付けます。このことで、各活動の学習内容が〔共通事項〕を基に関連するようになり、題材を通して一貫した指導ができるようになります。

題材のねらいを焦点化する

限られた授業時数で児童に題材でねらう力を身に付けさせるためには、題材のねらいを焦点化し、児童にどのような力を身に付けさせたいのかを明らかにすることが大切です。そのためには、題材を貫く明確なねらいを設定し、題材を通してねらいに迫ることができる授業展開にする必要があります。

題材のねらいに即した教材を精選する

題材のねらいを達成するためには、題材のねらいに適した教材を、教科書やその他の資料から精選する必要があります。そのためには、十分な教材研究を行って、曲のもつよさや面白さ、美しさなどを的確に把握することが大切です。また、その際には、教材の難易度、児童や学校の実態、学年ごとの系統性にも配慮して教材を精選する必要があります。



〔共通事項〕って何だろう？



学習指導要領に示される〔共通事項〕には、次のような内容があります。

「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 音楽を形づくっている要素のうち次の(ア)及び(イ)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。

(ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素

(イ) 反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組み

イ 身近な音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること。

文部科学省 『小学校学習指導要領』 平成20年3月 p.76より引用



〔共通事項〕とは

〔共通事項〕とは、表現及び鑑賞の能力を育成する上で、共通に必要な事項です。内容には、ア及びイがあります。

アについては、「音楽を形づくっている要素」に示される(ア)「音楽を特徴付けている要素」及び(イ)「音楽の仕組み」の中から、題材のねらいや児童の発達段階に応じたものを取り上げ、「児童がそれらを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取り、それを表現及び鑑賞の各活動に生かすよう十分指導することが大切」⁽¹⁾です。

イについては、「音符、休符、記号や音楽にかかわる用語」を「児童の実態に即して、その内容を6年間を通して理解できるようにすることが大切」⁽²⁾です。

※平成29年3月の告示案では、「問いと答え」が「呼びかけとこたえ」に変わっています。

〔共通事項〕の内容

音楽を形づくっている要素	
<p>(ア) 音楽を特徴付けている要素</p> <ul style="list-style-type: none"> • 音色 • 速度 • フレーズ • 音階 • 旋律 • 和声の響き <p style="text-align: right;">など</p>	<p>(イ) 音楽の仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> • 反復 • 変化 • 問いと答え※ • 音楽の縦と横の関係 <p style="text-align: right;">など</p>
音符、休符、記号や音楽にかかわる用語	

図2 〔共通事項〕の内容

(イ) 音楽の仕組み

(ア)「音楽の仕組み」とは、〔共通事項〕のアに示される「音楽を形づくっている要素」の一部です。(ア)が音楽を特徴付ける要素であるのに対し、(イ)「音楽の仕組み」は、音楽を構成する要素と捉えることができます。内容には、「反復」「変化」「問いと答え」「音楽の縦と横の関係」などがあります(前頁図2参照)。

・ 音楽の縦と横の関係



小学校学習指導要領解説音楽編には、次のように記されています。⁽³⁾

「音楽の縦と横の関係」とは、音の重なり方を縦、音楽における時間的な流れを横と考え、その縦と横の織りなす関係を指している。音楽を、音楽の縦と横の関係から聴き取り、その働きを感じ取ることが大切となる。

指導に当たっては、表現及び鑑賞の各活動において、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取りやすい楽曲を教材として選び、それらの働きが生み出す音楽のよさや面白さ、美しさなどを感じ取ることができるよう指導を工夫する必要がある。

文部科学省 『小学校学習指導要領解説音楽編』 平成20年8月 pp. 65-66より引用

(イ)「音楽の仕組み」のうち「反復」「問いと答え」「変化」は、主に音楽の横(時間的な流れ)の関係から音楽を聴き取るため、比較的、聴き取りが容易だと考えられます。それに対し、「音楽の縦と横の関係」は、2つ以上の音の重なりや全体を踏まえて音楽を聴き取ることが求められるため、児童にとって聴き取ることが困難な要素だと考えられます。この「音楽の縦と横の関係」は、中学校では、「テクスチャ」*として取り扱いますが、中学生にとっても聴き取りが難しい傾向にあります。

いろいろな指導場面が考えられますが、各活動において、「音楽の縦と横の関係」が生み出す響きのよさや面白さ、美しさなどを感じ取らせ、それらを様々な音楽表現に生かす経験をさせながら体験的に理解させることが大切です。また、小学校から中学校へまでの9年間で、児童の発達段階に応じ、段階的に指導をしていくことも大切です。

*「テクスチャ」とは、小学校で取り扱う〔共通事項〕の「音の重なり」「和声の響き」「音楽の縦と横の関係」の内容です。音やリズム、旋律の重なり方、和音や和声、多声的な音楽、我が国の伝統音楽に見られる音と音との関わり合いなどが含まれます。

「音楽の縦と横の関係」についての指導場面の例は、次に示すとおりです。

「音楽の縦と横の関係」指導場面の例

「旋律の重なり方」 第5学年

教材 「いつでもあの海は」【歌唱】

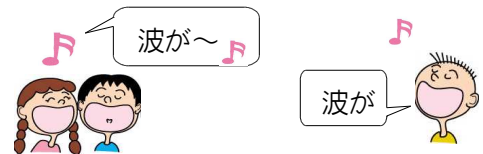
指導目標：旋律の重なり合う響きを感じ取って、表情豊かに歌うことができるようにする。

- ① 「いつでもあの海は」の範唱を聴かせ、和声の響きの美しさを感じ取らせる。
- ② 3つの部分（ア・イ・ウ）に分け、それぞれの部分の旋律の動きを楽譜を見ながら確認させる。

ア 1つの旋律になっている部分
… 1、2フレーズ目



イ 2つの旋律が追いかけて合うように重なっている部分
(多声的な旋律の重なり)
… 3フレーズ目



ウ 2つの旋律が同じリズムで重なっている部分
(和声的な旋律の重なり)
… 4フレーズ目



- ③ 歌詞の内容や曲想、旋律の重なり方を理解させ、どのように歌えばよいかを話し合わせる。
- ④ グループごとに歌い試させながら、発声、発音、強弱などの歌い方を工夫させる。

【歌い方の例】

ア

声を1つにして、旋律が、
ぴったり重なるように歌う

イ

互いに呼び掛け合う
ように、やさしく歌う

ウ

互いの声が、溶け込む
ように、声を響かせて歌う

- ⑤ 旋律の重なり方の違いを生かした表現の工夫を、器楽の学習へとつなげる。

図3 「音楽の縦と横の関係」(旋律の重なり方)指導場面の例

「音やリズムの重なり方」 第5学年

教材 「インターロッキングの音楽をつくろう」【音楽づくり・鑑賞】

指導目標：音楽の縦と横の関係を生かしながら、音やリズムの重なり方を工夫して音楽づくりができるようにする。

- ① 「ケチャ」を聴かせ、インターロッキングの意味（かみ合う）を理解させ、面白さを感じ取らせる。
- ② 教師がつくったインターロッキングの音楽を、手拍子や声で演奏させ、仕組みを理解させる。
- ③ グループに分かれて、インターロッキングの音楽をつくらせる。

- ・なるべく手拍子や声が重ならないように工夫させながら、2つのパターンの音楽をつくらせる。
- ・声で、2つのパターンの音楽をかみ合わせながら演奏させる。（○「チャ」、●「ク」）
- ・手拍子で、2つのパターンの音楽をかみ合わせながら演奏させる。（○打つ、●休み）




(例) パターンⅠ	○ チャ	● ク	○ チャ	○ チャ	● ク	○ チャ	○ チャ	● ク
(例) パターンⅡ	● ク	○ チャ	● ク	● ク	○ チャ	● ク	● ク	○ チャ

- ・パターンⅢをつくらせ、パターンⅠとパターンⅡを繰り返しながら、パターンⅢを重ねさせる。

(例) パターンⅢ	○ チャ	○ チャ	● ク	● ク	● ク	○ チャ	○ チャ	○ チャ
-----------	---------	---------	--------	--------	--------	---------	---------	---------

- ④ 3人グループで、いろいろな音色で演奏しながら、音の重なり方を工夫させる。

【音の重なり方の例】

声で演奏する ○「チャ」や「タ」 ●「ク」や「ド」	手拍子で演奏する ○打つ ●お休み	打楽器で演奏する ○打つ ●お休み
		

- ⑤ 「クラッピングミュージック」（ライヒ作曲）や「木琴の合奏」（アフリカ）を鑑賞させ、インターロッキングのよさや面白さなどの音楽的な価値を深めさせる。

図4 「音楽の縦と横の関係」（音やリズムの重なり方）指導場面の例

(1) 学習指導要領に示される内容から

イ 聴き取り、感じ取ったことを表現に生かす指導

小学校学習指導要領における学習指導についての考え方

小学校学習指導要領では、音楽科の目標が次のように示されています。

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

『小学校学習指導要領』 平成20年3月 p.75より引用

音楽科においては、児童生徒の「音楽を愛好する心情」や「音楽に対する心情」、「音楽活動の基礎的な能力」を育て、「豊かな情操を養う」ことが目標であり、常に、児童の情意面と能力面とを関わらせながら指導することが重要です。そのためには、児童が自らの感性を働かせながら、「このような音楽表現をしたい」という考えや願いをもち、それらを基に、主体的に音楽表現を工夫できるようにすることが大切です。



学習過程の在り方 ～中央教育審議会～

図5は、中央教育審議会が取りまとめた「幼稚園・小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）別添資料」で示された「音楽科、芸術科（音楽）における学習過程のイメージ」⁽⁴⁾です。このイメージ図は、音楽科、芸術科（音楽）における学習過程の在り方を具体的に示したものと捉えられます。

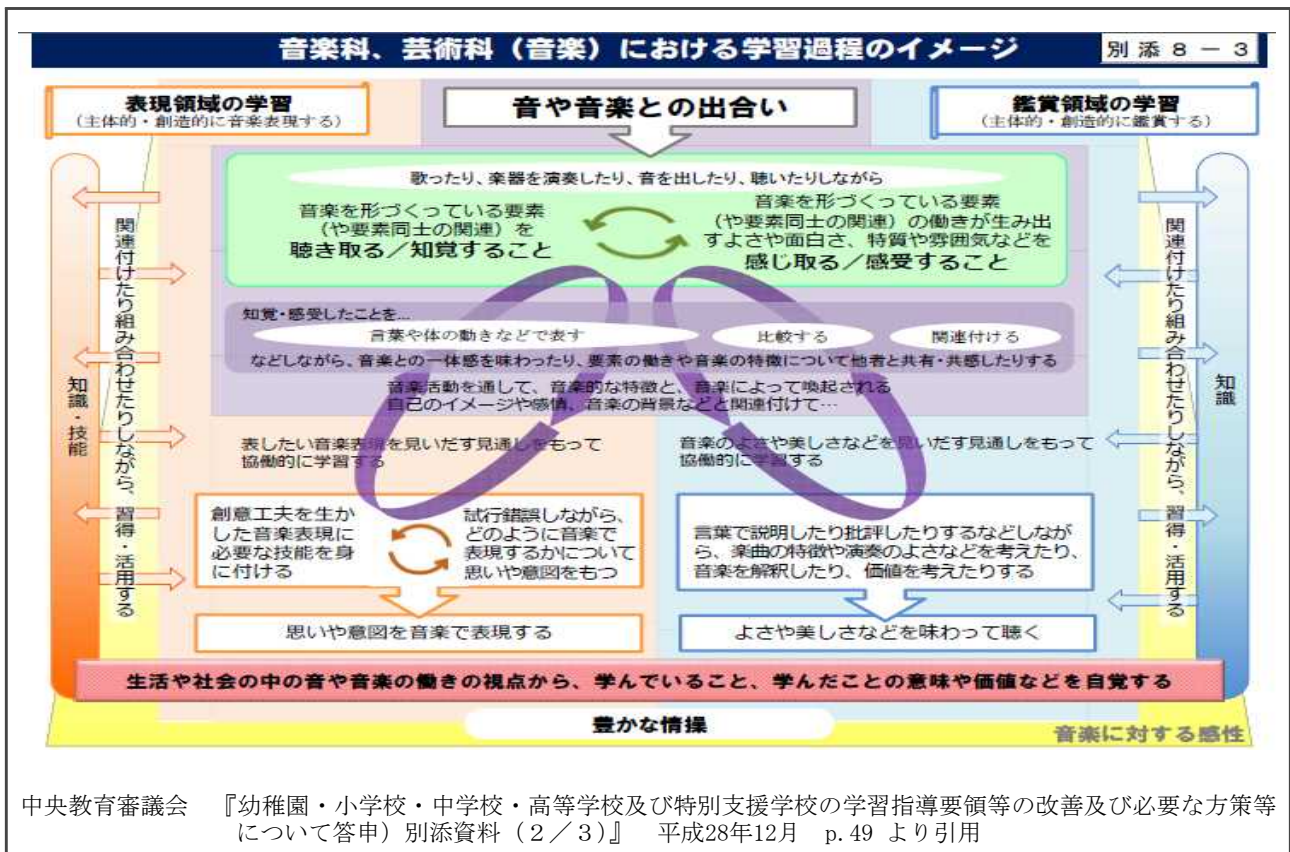
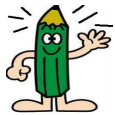


図5 音楽科における学習過程のイメージ図

このイメージ図（前頁図5参照）では、「表現」と「鑑賞」のどちらの学習においても、聴き取り、感じ取る過程が共通に位置付けられています。そして、表現領域の学習においては、「聴き取り、感じ取ったことを基に、思いや意図を音楽で表現できるようにするための学習過程」、鑑賞領域の学習においては、「聴き取り、感じ取ったことを基に、音楽のよさや美しさなどについて、自分なりの考えをもって味わって聴くための学習過程」が具体的に示されています。

このような「学習過程のイメージ」を具現化することにより、音楽科の学習において、児童生徒が主体的に学習に取り組むようになると考えられます。そして、音楽科の目標である「音楽を愛好する心情」や「音楽に対する感性」、「音楽活動の基礎的な能力」を身に付けた「豊かな情操」の児童生徒を育成することにつながると考えられます。



▶ このマークのページに戻ろう

《共通事項の位置付け》

一方、この「学習過程のイメージ」を具現化する際の拠り所となるものとして、〔共通事項〕の内容に示される「音楽を形づくっている要素」の存在があります。この「学習過程のイメージ」の中で、児童生徒が、「音楽を形づくっている要素」を聴き取り、その働きが生み出す音楽のよさや面白さ、美しさを感じ取り、それらを表現や鑑賞の活動に生かすことができるように指導することが求められています。

以上のことから、「聴き取り、感じ取ったことを表現に生かす指導」とは、児童生徒が〔共通事項〕のアに示される「音楽を形づくっている要素」を聴き取り、感じ取り、それらを基に思いや意図をもって音楽表現を創意工夫したり音楽表現ができるための技能を身に付けたりできるような「学習過程のイメージ」を具現化することと捉えます。そして、そのことは、小学校学習指導要領に示される音楽科の目標を達成させるための指導であると考えます。

《引用文献》

- (1) (2) (3) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説音楽編』 平成20年8月 pp. 65-67
 (4) 中央教育審議会 『幼稚園・小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）別添資料（2／3）』 平成28年12月 p. 49